



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-124

(2025. 1. 14)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

上席主任研究員 刀禰 和之

研究員 森川 友理

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-15）

- 中途採用の実施状況 -

ポイント

- 本稿は当研修所主催「経営戦略プランニング研修（2024 年度）」の事前課題の集計結果となる（回答数は 55 金庫）。
- ほぼ全ての研修受講金庫が中途採用の実施について「あり」と回答し、更にその大半で中途採用の強化（積極化）が打ち出されていた。
- 中途採用の対象は、本部専門分野に限らず幅広く営業店職員も募集する研修受講金庫が増え、なかでも第二新卒の採用に力を入れる動きが強い。
- 中途採用の募集方法は、地縁・人縁を活用したリファラル採用の強化に加え、転職サイトへの募集登録や転職スカウト企業の活用を挙げる信用金庫がみられた。

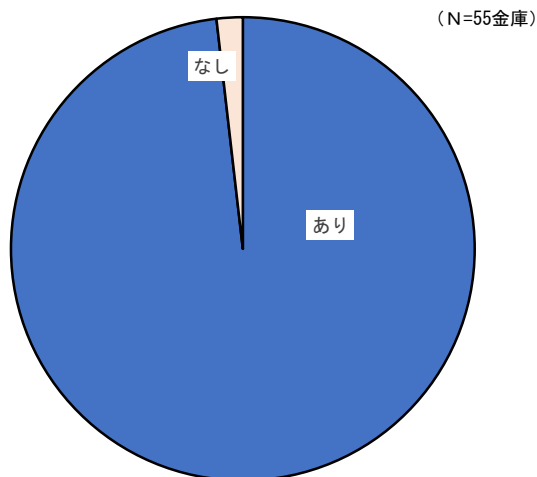
（注 1）本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2024 年度）」の意見交換および個別信用金庫へのヒアリング等で得た情報をもとに作成している。

（注 2）本稿は、ニュース&トピックス（2024-18）「信用金庫の新しいビジネスモデル策定（54）- 中途採用の実施動向 -」のアップデート版となる。

1. 中途採用の有無

近年の新卒採用難と職員の中途退職増加による人手不足を背景に、中途採用を開始・強化する信用金庫が急速に増えている。そこで当研修の事前課題では中途採用の有無を確認した。集計結果をみると、研修受講金庫のほぼ全て（55 金庫中 54 金庫）が中途採用「あり」との回答であり、また、『積極的に中途採用を実施する（中途採用を強化する）』などのコメントが大勢を占めた（図表 1、2）。

（図表 1）中途採用の有無



（図表 2）事前課題の概要等

質問事項	【中途採用の実施】 ①採用の方針等 ②元職員の採用の有無
対象金庫	経営戦略プランニング研修（2024年度）受講金庫
回答期間	2024年6月3日～7月31日
回答金庫数	55金庫
その他	②元職員の採用（アルムナイ採用）は、別レポートで紹介予定
参考	詳しくは、金融調査情報（2024-10）「信用金庫の新しいビジネスモデル策定①-「経営戦略プランニング研修（2024年度）」の概要-」を参照

（備考）図表 1 から 3 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 募集対象の拡大

これまではシステム部門やリスク管理部門などの本部専門分野での限定的な中途採用に留める研修受講金庫が多かったが、足元では営業店の渉外担当やテラー担当の中途採用も積極化の方向である。特に20歳代前半の第二新卒の中途採用に力を入れる研修受講金庫がみられたほか、元職員の採用となるアルムナイ採用や将来の正職員登用を想定した派遣職員の採用なども活発である。

3. 募集方法の拡大

これまでは『応募があったら採用の可否を考える』といった受動的な姿勢が強かったが、積極的に中途採用を実施する方向に舵を切る研修受講金庫が多かった。なかでも地縁・人縁を活用したリファラル採用や、転職サイトへの募集登録、転職スカウト企業などの外部専門企業の活用などがみられた。その他では、元職員の採用となるアルムナイ採用の開始、担当者の拡充による通年採用の募集実施などのコメントもあった。

4. 研修受講金庫のコメント

研修受講金庫による事前課題の主なコメントは図表3のとおりである¹。

（図表3）研修受講金庫のコメント例

- 当金庫はリファラル採用にて中途採用を強化する。役職員に周知・協力を仰ぎ、優秀な人材を確保し入庫後の定着率を高める考えである。
- これまでは金融機関出身者を地縁・人縁のなかで中途採用してきたが、今年度から転職サイト等への募集登録を行うことにした。特に20歳代前半の第二新卒をターゲットとしている。
- 2023年9月から大手採用サイトと契約し、中途採用の窓口を通年でオープンした。即戦力人材への訴求を図っている。
- 転職サイトの活用や自金庫HPの拡充を通じて中途採用を強化している。地元外OKなど条件を緩和して募集することで、多くの応募者を得ることができ、その中から当金庫の希望に沿った中途採用者を得ることができた。
- 当金庫は中途採用や第二新卒採用を通年で実施することに加え、派遣職員の採用も行っており、新卒採用以外でも職員を確保する。
- 中途採用では、金融出身に限らず募集している。募集では転職サイトの利用のほか、新聞広告も活用している。今年度から転職スカウト企業とエージェント契約を開始した。
- 当金庫は自金庫HPに経営理念や目指す活動などを全面的に打ち出すことで、働き甲斐やワークライフバランスなどを重視する転職希望者に訴求している。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

¹ 信用金庫のコメント等は研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある（個別信用金庫名や詳細資料の提供依頼にはお応えしていません）。